

● 日本の主な火山活動

口永良部島の新岳では、6 月 19 日の噴火以降、噴火は観測されていない。

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量はやや少ない状況であった。地殻変動観測では、5 月 29 日の噴火以降に特段の変化は認められない。5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、引き続き噴火の可能性がある、火砕流に警戒が必要である。火砕流の流下による影響が及ぶと予想される屋久島町口永良部島の居住地域（前田地区、向江浜地区）では厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。

噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね 2 km の範囲、及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね 2.5 km の範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意が必要である。新岳火口から半径 1.4 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがあるので、噴火に警戒が必要である。

西之島では、海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続している。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられる。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や、水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね 2 km の範囲に及ぶおそれがあるので、西之島の中心から概ね 4 km 以内では噴火に警戒が必要である。

吾妻山では、大穴火口からの噴気活動はやや活発な状態が続いている。

遠望カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）の噴気の高さは 100m 以下で経過した。また、2015 年 1 月以降確認している大穴火口外の噴気が引き続きみられている。

13 日に実施した現地調査では、前回（10 月 14 日から 15 日）の調査で新たに観測した一切経山西側登山道沿いの弱い噴気が引き続き認められた。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がある、大穴火口周辺（火口から概ね 500m の範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

草津白根山では、湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続している。東京工業大学によると北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分にも火山活動の活発化を示す変化が継続している。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

浅間山では、6 月 19 日の噴火以降、噴火は観測されていない。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は多い状態が続いている。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も多い状態で経過しており、引き続き火山活動はやや活発な状態で経過している。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がある、山頂火口から概ね 2 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

御嶽山では、火山性地震は少ない状態で経過しているが、昨年（2014 年）8 月以前の状況には戻っていない。御嶽山の火山活動は低下した状態が続き、昨年 10 月以降噴火が発生していないことから、昨年 9 月 27 日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられる。一方、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年 9 月 27 日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できない。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

阿蘇山の中岳第一火口では、10 月 23 日に噴火が発生して以降、噴火は発生していない。

火山活動の活発時にみられていた火山性微動の振幅の増大は 10 月 23 日以降、概ね小さな状態となった。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が多い状態が続いていたが、10 月下旬以降は減少している。

これらのことから、火口から 1 km を超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと

判断し、24 日 14 時 00 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 2（火口周辺規制）に引き下げた。

中岳第一火口では、2014 年 11 月以降、活発な火山活動が続いてきたことから、当分の間は火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要である。

霧島山（新燃岳）付近を震源とする火山性地震が時々発生した。

GNSS 観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015 年 1 月頃から停滞している。一方、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向がみられていたが、10 月頃から停滞している。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

桜島の昭和火口では、9 月 17 日以降爆発的噴火は発生しておらず、9 月 29 日以降は、南岳山頂火口を含めて小規模な噴火も観測されていない。火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過し、山体の膨張を示す地殻変動はみられていない。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も少なくなっている。これらのことから、昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 1 km を超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性が低くなったと考えられるため、25 日 11 時 00 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 2（火口周辺規制）に引き下げた。

火山活動は低下しているが、これまでも噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると考えられる。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

諏訪之瀬島の御岳火口では、1 日と 20 日に噴火が発生した。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

雌阿寒岳では、ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする体には感じない微小な火山性地震は少ない状態で経過している。また、2 日から 5 日にかけて実施した現地調査では、10 月 1 日の調査と比較して地熱域のさらなる拡大等は観測されず、過去の活動と比較して熱活動の高まりは小規模なものに留まっており、ポンマチネシリ火口から約 500m の範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったものと考えられる。

これらのことから、13 日 14 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げた。

なお、ポンマチネシリ 96-1 火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全磁力の変化は継続しているので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

蔵王山では、火山性微動が 3 回発生した。そのうち、30 日に発生した火山性微動は継続時間のやや長いものであった。

2013 年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014 年 10 月以降はわずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

箱根山では、大涌谷で 7 月 1 日にごく小規模な噴火が発生した以降、噴火は観測されていない。

地震活動は低下傾向が続いており、ほぼ 4 月の活動活発化以前の状態となっている。国土地理院の GNSS 連続観測でみられていた山体の膨張を示す地殻変動も、8 月下旬頃から停滞し、その後特段の変化はみられていない。また、気象庁と神奈川県温泉地学研究所が設置している傾斜計や体積ひずみ計では、8 月以降火山活動に関連する変動はみられていない。

これらのことから、大涌谷周辺の想定火口域において噴火の可能性は低くなったと判断し、20 日 14 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げた。

一方、大涌谷周辺の想定火口域では、緩やかな低下傾向はみられるものの、噴気活動が活発なところがある。大涌谷周辺の想定火口域では、噴気や火山ガスに引き続き注意が必要である。

表 1 11 月 30 日現在の火山現象に関する特別警報・警報・予報等の発表状況
 （※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中）

特別警報・ 警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル 5（避難）	口永良部島※
火口周辺警報	入山危険	西之島※
	レベル 2（火口周辺規制）	吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、阿蘇山、霧島山（新燃岳）、桜島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島※
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福徳岡ノ場※
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、新潟焼山、焼岳、白山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	上記以外の活火山

※噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応がキーワードで示されている。



図 1 11 月 30 日現在、火山現象に関する特別警報、警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山